

核融合核データ・ワーキング・グループ

^{16}O 核データ・サブ・ワーキング・グループ 会合議事録

開催日時 昭和58年8月26日(金)
開催場所 東海研 研究2棟335室
出席者 田中茂也, 浅見哲夫, 中島 豊, 柴田恵一(原研),
村田 徹(NAIG), 神田幸則(九大)

配布資料

- (1) OKTAVIANによる水およびポリエチレンの透過実験結果
- (2) Hickey et al.; Nucl. Phys. A225(1974)470
- (3) $^{16}\text{O}(n, n')$ の Evaluation (中間報告2)
- (4) σ_t の評価結果 ($E_n = 5\text{ MeV}$ 以上) の数値表とグラフ

議 事

- (1) OKTAVIAN の透過実験結果で, 水とポリエチレンの場合を比較すると, 測定値と計算値の違いから, O の核データが正しくないのではないかと指摘されている。(東北大, 神田一隆氏からのコメント) 直接どの種の断面積と関係あるかは特定できない。
- (2) RESCAL の計算結果(中島)
Hickey et al. の与えた数値を入力して計算した。実験と合わない。E の取扱いが原因らしい。
- (3) $\sigma(n, n')$ の評価(田中)
Hauser-Feshbach の計算に用いるポテンシャル・パラメータの決定, $\sigma(n, n')$ の実験データの取扱い, Coupled-Channel 計算結果について詳細な説明があった。この方針に従って, 最終結果を求めることとなった。
- (4) σ_t ($E_n = 5\text{ MeV}$ 以上) の結果(柴田)
KFK の測定を許に NDES で得られた結果が示された。この σ_t を参考に

して他の σ を求めることとした。

(5) $\sigma(n, n)$ (村田)

前回提案された方法を multi-level Breit-Wigner 公式で試みた。
Johnson et al. の $^{17}\text{O}(r, n_0)$ の解析と比較した説明があった。充分
検討すべき方法である。

(6) 今後の日程

担当の σ について 9 月 12 日までに数値を提出し、実験値との比較をする。

次回 9 月 16 日に調整して評価値を確認の予定。

(7) 次回 9 月 16 日 (金)